

# 見学調査報告書

テーマ :  
ゼミ名 : 高岡 正人 ゼミ  
調査日 : 2024年5月30日(木)  
調査先 : 在日本モンゴル大使館  
授業科目名 : グローバル・プロフェッショナル・プログラム B2  
(グローバルキャリア/モンゴル)  
参加学生数 : 5名(2年)

## 調査の趣旨(目的)

GPP(モンゴル)の授業の一環として、日本に駐在するモンゴル外交官からモンゴル事情、日本とモンゴルの関係などについて説明を受け、履修生のモンゴル理解向上の資とすること。

## 調査結果

モンゴル大使館デルゲルマー公使参事官と面談し、説明を受けるとともに、学生からの質問を踏まえて議論を実施。全体で1時間半程度。

議論の主な内容は以下の通り。

- ・モンゴルの歴史(モンゴルの独立過程、社会主義から自由民主主義への社会体制の変化など。ちなみに、社会主義時代は英雄チンギスハンについての教育はほとんどなく、また、自由主義への移行期において歴史の教育制度も整っていなかった)
- ・モンゴルの地理(ロシアと中国に挟まれた内陸国)
- ・モンゴルの産業(石炭銅などの鉱業に偏重。内陸国であるために、製品の国外輸送に困難が多い。新たな産業の開発が大きな国家課題)
- ・外交関係(中露という両隣国の関係のマネジメントが最重要ではあるが、日本、米国など「第三の隣国」との関係発展を非常に重視)
- ・日本とモンゴルの関係(極めて良好。首脳同士の交流も緊密。これまでの日本からの支援に深い感謝。モンゴルでは日本に対する敬意が強い。日本からの投資についても強い存在感がある)
- ・日本留学

モンゴルでは日本に留学した人材が国家の発展に大きく寄与している。今年6月の総選挙の与党人民党の比例代表候補者リストの第1位に東大で博士号を取得した非常に優秀な人物が載せられている他、何人かの日本留学組が候補に名前を連ねている。また、最大野党民主党の党首も日本留学組である。これも日本がモンゴルの発展に貢献していることの重要な例である。

」翌週の授業では、大使館訪問で得た所感を各学生から発表。

